

今回は学校行事や他教科を取り入れたオリジナル教材なども作成し学年、クラス、個々の児童に対応した指導を心掛けていらっしゃる中川さんの実践報告です。

# J-SHINE 通信

2017年5月号



中川 直子さん

J-SHINE小学校英語上級資格者  
横浜市YICA/英語サポーター  
(有償ボランティア)  
金沢区の市立小学校で英語指導歴12年

## ■J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

小学校英語との関わりは2005年からで、子どもの小学校が横浜市の英語導入モデル校となり保護者に指導人材の募集があったためです。通訳ガイド・元CA・英語教室主宰などなど経歴豊かな人材が集まって協力し、プランも教材も一から作り上げるスタートでした。AETや担任とのTTも始まった翌年、学校で教えるからには…と、仲間の一人とアルク通信講座を受講し2007年にJ-SHINE資格を取得しました。

先生方と一緒に研修を受け、研究授業に携わるなど貴重な経験もさせて頂きながら活動してきて、校長先生のご紹介で2012年から別の小学校にも関わらせて頂いたため更新期間の授業数が200時間/4年を越え、2016年、2回目の更新で上級資格が取れました。

英語系卒ですが当時教職には興味がなく、海外事業部の広報職につき、言語ツール・編集デザインの対象として英語を扱ってきた私が子ども英語を学び始めたのは、結婚に伴う8年の在米生活中に生じたバイリンガル育児の必要からで、帰国後に家庭と英会話学校での英語教育を試みて本格的に児童英語と関わり始めました。

## ■現在の活動状況

現在、横浜の公立小での外国語活動は5時間の国際理解に加えて、1～4年生が年15時間、5・6年生が30時間ほどです。週に1・2日派遣されるAETが中心となり「Hi, friends!」や横浜市の指導事例集に基づき授業するのが主流ですが、内容や指導形態は学校ごとに様々ようです。

私は年度ごとに2学年位ずつ担当してきましたが、携わる授業数はクラス減少やAETの充実もあって減り気味で、一校で年10日・25時間前後です。

授業への関わり方は、①JTE主導+担任のサポート、②AET主導をサポート+担任、③担任とのTT、④AETとのTT+担任、と色々で、教育委員会の方針や学校の事情によって変化してきました。

中心は、①のAET抜き主導授業で、プラン・教材準備（必要なら制作も）から行い、担任の先生には児童見本的な役とグループ活動等の監督指導を分担して貰っています。各学年x3クラスx3単元程をこの主導授業で行います。

次が②AETサポートで、二校目の主流でした（複数の学校を知るAET達からの情報によるとこれが一般的な形式のようでした）。サポートの際はより児童一人一人に注視し、指示や説明をパラフレーズする、AETに復唱を促すなど、受け手目線からのフォローと、児童の発声を手伝う、話し掛けて作業のヒントを与える・出来栄を誉めるなど、個々のケアを心掛けています。手助けや誉め言葉が上手く作用し、大きな声が出せたり笑顔になったりしてくれるのが嬉しい瞬間です。

プラン作成で意識するのは、学習フレーズの自然さと、全児童が発言する状況をいかに多く作るかです。

低学年では、歌やTPR+絵本スキットやゲーム活動で【発声】を第一にし、最後は落ち着かせて一旦終わり、英語ルームからの送り出しに一人ずつ、授業トピックの一言Q&AとハイタッチでSee youするのが児童も緊張感がなく楽しいようで、元気な応答でWrap-upできます。

高学年では、文字練習を兼ねた自作のクイズ・プリントも活用しています。個人で考えたり少しチャレンジングな課題の方が集中して取り組んでくれるように思います。

英語をより身近にと学校行事や他教科を取り入れて作った『修学旅行』や『カレー作り』、『蝶の観察』と絵本指導をリンクしたプランなどはバリエーションも増え定番化しました。

9割英語が標準ですが、高学年になると間違いたくない&羞恥心からか、半端な理解度だと【行動しない】を選択する児童も出

てくるので、細かい指示や質問には日本語も使い状況理解を確実にした上で活動させています。一方、英語が得意な児童は巡回時のちょっとした話しかけに喜んで応えてくれます。

少ない担当時間でもスパイラル学習を心掛け、キーフレーズ以外にも直近学習や既習単語を散りばめ、配布作業なども絶好の会話機会として児童の英語対応を促しています。クラスの状態に合わせてその場で授業をアレンジする事も必須です。

主導授業は電話&メールで相談し準備して臨めますが、サポート役では授業前にトピックを知る&休み時間に改善点や次の予定を相談するくらいが通常です。AETとは空き時限に話もできますが、多忙な先生方とは打合せ機会がないので、現場でお聞きし臨機応変に対処できる心づもりが大事だと思います。

早くから英語活動に力を入れた学校で、沢山の先生方と独自のカリキュラム・活動案・教材を創作する現場に携わり、大人数を動かす手法も学ばせて頂いた経験にはとても感謝しています。

### ■ 今後の展望、課題、目標

教科化に伴う中学英語への連携という課題をより意識しつつ、小学校英語では実技的な活動を展開していけたら…、英語を通して世界に目を向け、また自分や日本について発信できる力を身につける手助けができれば、と思っています。

「外国人との出会い」と「英語で遊んだ」だけで終わらない為にも、スキルを持つJTEの役割は大きいと考えますので、児童の関心事にも敏感に柔軟な対応力を持って、興味をかきたて記憶に残る楽しい授業ができるよう、引き続き指導法を学び英語力を磨いていくつもりです。

小学校英語では、私のような、あくまでも授業をお手伝いする立場のボランティア講師も多く、出来る事には微妙な制限もあると思いますが、「学校の先生とは違う英語の人…」と児童がとらえる非日常感は、英語空間スタートの要素にもなりますので、「いつも笑顔で面白い事をする人」と思われる指導者でいられたら素敵ですね。

#### \* J-SHINE 通信 Web ページ

この2017年5月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>

今月の花 パラ

### オリジナル・プランと制作した教材



日光修学旅行 全4時間授業(6年生)



機内食のスキット(高学年)

クリスマス・カード作り(中～高学年)

お店屋さんスキットでクリスマス・ツリー作り(低学年)



ハロウィン パズル、クロスワード(高学年)